鹿沼市都市計画マスタープラン（改定素案）パブリックコメント　意見と回答

※文体を統一するため、語尾など一部調整した箇所があります。

意見者No.		意見等	回答
1	1	該当箇所（ページ） 意見 東口駅前広場、鹿沼駅裏通り周辺に駐車場、駐輪場の計画はあるのでしょうか？　コンパクトシティは必要だと思います。人口(若者)の流出を増やさない、学生が一時的に市外の大学、専門学校に通っても戻りたくなる環境整備(住居/交通/子育て環境)、若い人の働きたい職場は宇都宮でも子育てや生活するのは鹿沼。鉄道、バスのハイブリット運用で宇都宮～鹿沼の最終便(0：29着)を確保。JR鹿沼駅周辺に若者向けの低層マンション/アパート建設の誘導し宇都宮中心地の企業への就労。18～32歳への支援強化につながるような都市計画にしてもらえたらと応援させていただきます。大学の部活・サークルは意外と練習試合で山梨や茨城等に泊まりで行くことも多いので運動公園やスノーピークキャンプ場・南摩ダム等魅力ありそうです。鹿沼を知ってもらうのにも貢献してくれるかも知れません。	JR鹿沼駅につきましては中心市街地への玄関口としてふさわしい賑わいと利便性に満ちた交通拠点の形成としてマスタープランに位置づけております。 現在、駅東側では、交通結節点の機能強化や利便性向上を目的として、東西自由通路の設置に向けた調査設計を進めておりますが、駐車場や駐輪場につきましては、今後予定している基本計画の策定作業の中で検討してまいります。 いただいたご意見は今後のまちづくりや施策検討の参考とさせていただきます。

意見者No.		意見等	回答
2	1	該当箇所（ページ） p39～40　公共交通の利便性向上と市の魅力向上について まちづくりの前提条件として、鹿沼市は高等教育進学や就職時の人口流出に加えて、通勤通学を目的とした昼間人口の流出超過が見られることを考慮すると、市内の就業機会が十分でない現状がうかがえます。街に魅力があったとしても、仕事がなければ生活を維持する事は難しく市外へ転出せざるを得ません。 そのため、市内の就業機会を増加させるか、就業地へのアクセス向上が必要となりますが、鹿沼市は宇都宮市との通勤通学の流動が多く強い結びつきがあることから、宇都宮市との交通ネットワーク強化は鹿沼市の居住地としての魅力を向上させることにつながると考えます。 また、鹿沼市街地には、彫刻屋台や川上澄夫美術館など全国に誇る文化・観光資源があり、それらは東武新鹿沼駅、JR 鹿沼駅間の民間路線バス沿線に点在しており、これらの乗り換え利便性を向上させる事は市街地の観光地としての魅力を向上させ、それがひいては就業機会の増加につながると考えます。 一方で、公共交通機関は高齢者の足としての側面があり、リーバスや予約バスは高齢者福祉の一端として機能していると考えます。しかしながら、高齢者のみの利用では十分な利便性を保ったまま維持することが困難になってくるとも考えられるため、幅広い市民の利用が必要になります。栃木県内では昔から「自動車社会だから」と言われてきましたが、第４０回芳賀・宇都宮基幹公共交通検討委員会資料『ライトラインの整備効果について』によれば、ライトライン開業後に自動車からの転換が明確に見られており、これは利便性の向上によって公共交通機関への転換が進んだ結果と推測されます。また、同じように日常の移動ではマイカーの利用が中心となっている鹿沼市においても、通勤通学に便利な時間帯においては現役世代のリーバス利用がみられるなど、利便性が向上すれば公共交通機関の利用が多くなると考えます。幅広い世代の利用は市内の公共交通機関の乗客数を底上げし、利便性の維持向上に寄与、結果として高齢者にも使いやすい公共交通機関が維持されると考えます。	公共交通の利便性向上について、マスタープランでは、JR 鹿沼駅・東武新鹿沼駅周辺などを交通拠点とし、多様な交通手段相互の乗り換え機能の強化やユニバーサルデザインに配慮した拠点形成を図ることとしています。 また、コンパクトシティ・プラス・ネットワークの考え方を踏まえ、リーバスのほか予約バス・移送サービス等のデマンド型交通を活用し、地域の実態やニーズを把握しながら利便性の向上を図るとともに、各交通機関が相互に連携する効率的な公共交通ネットワークの形成をマスタープランに位置づけております。 公共交通の維持・向上及び利用促進に向けた具体的な取組等につきましては、鹿沼市地域公共交通計画の中で検討を進めることとし、ご意見を参考にさせていただきます。

意見者No.		意見等	回答
2	2	該当箇所（ページ） p39～40　周辺都市との広域交通の強化について 改定素案では交通体系について「周辺都市との広域交流を促し」との記載があります。 周辺都市の中でも宇都宮市とは通勤通学などで強い結びつきが見られており、両市を結ぶ交通を十分に整備することは、鹿沼市の居住地としての魅力向上に寄与するものと考えておりますが、公共交通における対宇都宮輸送の利便性については十分でないと感じております。私自身も宇都宮方面で勤務しているためライトライン開業に伴い公共交通での通勤を検討しましたが、JR 日光線の駅の位置や運行本数などの利便性を考慮し、従来どおりマイカー通勤を続けております。私以外にも同様の理由からマイカー通勤を選択している方や、居住地として鹿沼を選択しない方がいるものと考えまして、宇都宮との公共交通の利便性向上から、以下を検討するべきと考えます。 ①JR 日光線の新駅設置とパークアンドライド（P&R）整備、運行本数検討による利便性の向上 現在市内の JR の駅は鹿沼駅一つであり、市街地からのアクセスは良いものの市郊外からの利便性が良いとは言えません。また運行本数が少ないため、乗車前後に時間調整が必要になる場合があります。そこで宇都宮手前に位置し幹線道路のアクセスも良い深津付近に新駅を設置、P＆R 施設を整備する事で市街地を経由せず鉄道へ乗り換える事が可能になり、運行本数向上と合わせて JR 日光線の利便性が向上出来ると考えます。 ②将来的なライトライン大谷延伸時の P&R 整備 現在宇都宮市のライトライン計画において大谷観光地付近までが検討区間となっております。大谷付近は鹿沼市北部からのアクセスが良く鹿沼市民にも利用価値が高いため、将来的なライトライン大谷延伸が具体化した際には P&R 施設を宇都宮市などと連携し整備をして頂きたいと思います。 P&R 拠点を整備する事で駅から離れた市民も公共交通機関を使いやすくなり鹿沼市の宇都宮都市圏における居住地としての魅力が向上するものと考えます。特に宇都宮市・芳賀町でライトラインが開業し公共交通が見直されている今、検討する必要があると考えます。	宇都宮市との連携を含む広域的な交通ネットワークの形成は、本市のまちづくりにおいて重要であると認識しています。民間路線バスを宇都宮市との連絡を担う交通手段として位置付けており、パークアンドライドは、公共交通の利便性向上、利用率向上には有効な取組であると考えております。 なお、深津付近への JR 日光線新駅につきましては、以前、実施に向け検討していた時期もありましたが、大型公共事業の見直しの中で中止した経過がありますので、現時点においても整備することは考えておりません。 また、ライトライン延伸に向けた取組については、事業の進捗を注視いたします。 いただいたご意見は、今後の施策検討の参考とさせていただきます。

意見者No.		意見等	回答
2	3	該当箇所（ページ） p39～40、p70　交通結節点の強化について 素案では「JR 鹿沼駅・東武新鹿沼駅などの交通結節点の強化を図り、都市交通の円滑性・利便性・快適性を向上させます。」とあります。私も交通結節点の強化はそれぞれの公共交通を効果的に機能させて生活の快適性を向上させるものと考えております。一方、私自身が宇都宮市内の病院に通院した際など公共交通を利用した際、乗り換えの不便さを感じたことがありました。そこで、交通結節点の機能強化について以下を検討するべきと考えます。 ①JR 鹿沼駅・東武新鹿沼駅 駅前ロータリーへの民間路線バス乗り入れ JR 鹿沼駅と東武新鹿沼駅の近くには、両駅を結び宇都宮方面へ向かう民間路線バスが運行されていますが、民間路線バスのバス停が分かりにくく、特に JR 鹿沼駅から東武新鹿沼駅方面へ向かう場合は、経由地によってバス停が違うため次のバスがどちらのバス停から発車するのか分からない状況です。そこで、現在乗り入れているリーバスに加えて民間路線バスも両駅の駅前ロータリーへ乗り入れることで、鉄道とバスの乗り換えが分かりやすくなり、利便性の向上が計れるものと考えます。 ②東武楡木駅周辺の交通結節機能強化 楡木町周辺には東武線楡木駅と宇都宮方面へ向かう民間路線バスがありますが、駅とバス停が離れていることに加え、粟野地域予約バスの地区外目的地は楡木駅であり、民間路線バスのバス停が含まれていないため、乗り換えの利便性に欠けると感じています。一方で道路幅や駅前スペースが狭いため、民間路線バスの駅前への乗り入れは難しいものと考えます。そこで、楡木駅に近い南押原コミュニティセンターへ民間路線バスを乗り入れ、駐車場・駐輪場の一部を公共交通利用者へ開放、粟野地域予約バスの地区外目的地への同センターの追加を行うことで、各公共交通間との円滑な乗り換えが図れるものと考えます。 乗り換え利便性の向上など交通結節点の機能強化は、それぞれの公共交通機関の利便性向上や市外からの来訪者へストレスフリーな移動手段を提供することにつながり、市の魅力向上につながると考えます。	JR 鹿沼駅・東武新鹿沼駅などの交通結節点については、多様な交通手段相互の乗り換え機能の強化やユニバーサルデザインに配慮した拠点形成を図り、都市交通の円滑性・利便性・快適性の向上をマスタープランに位置づけております。 ご意見いただいた、JR 鹿沼駅・東武新鹿沼駅ロータリーへの民間路線バスの乗り入れについては、運行の安全性などを総合的に判断し現状の運行形態となっていますが、バス停のわかりやすさにつきましては今後改善を図っていきたいと考えております。 また、楡木駅周辺の公共交通の円滑な乗り換えにつきましても、今後、鹿沼市地域公共交通計画策定の中で、今後の交通結節点としての機能強化に向けた施策検討の参考とさせていただきます。

意見者No.		意見等	回答
2	4	該当箇所（ページ） p73、p75～76　粟野地域のリーバス・予約バスについて 栃木県の『栃木県市町村合併誌』において、鹿沼市と旧粟野町は、通勤・通学・買い物・医療面等を共にする一つの生活圏を形成していることが、合併を必要とした理由として挙げられています。現在においても粟野地域は日常の買い物や上都賀・御殿山病院をはじめとした医療機関への通院などというように、一つの生活圏を形成していると言えます。一方、粟野地域と鹿沼市街地を結んでいる公共交通はリーバス口粟野線のみであり、予約バスで鹿沼市街地へ移動しようとするとリーバスなど他公共交通機関への乗り換えを強いられ、また、地域住民が通うクリニックが地区外目的地として設定されていないなど実際の生活圏に即したネットワークになっているとは言えません。一つの生活圏として合併してから約 20 年が経過した現在においても、このような状況にあることには甚だ疑問を感じます。特に高齢者や医療機関への受診が必要な方にとって、乗り換えは大きな負担となることから是正が必要と考えます。 つきましては粟野地域予約バスの地区外目的地を含め、実際の生活圏・移動需要に合わせて公共交通網を見直すことを都市計画マスタープランに位置付ける必要があると考えます。	マスタープランでは、リーバスのほか予約バス・移送サービス等のデマンド型交通も含めた、公共交通については、地域の実態やニーズを把握し、利便性の向上を図るとともに、各交通機関が相互に連携する効率的な公共交通ネットワークを形成することとしておりますが、ご意見のとおり、地域により生活圏が異なっていることで、現在のリーバス・予約バスだけでは利用者のニーズに全て応えられていないのが現状です。 今回のご意見を参考に、地域の実情に合わせた移動手段の確保については、今後、鹿沼市地域公共交通計画の中で検討させていただきます。
2	5	該当箇所（ページ） p40　リーバス・予約バスなどのキャッシュレス対応について 素案には公共交通機関の利便性向上がうたわれています。利便性向上は市民の乗車障壁を下げ、乗車率向上につながると考えます。さらに小銭の心配のないサービスは、勝手のわからない来訪者の回遊利便性向上に寄与すると思われます。しかしリーバス・予約バスはキャッシュレスに対応しておらず、事前の両替が必要になるなど不便さを感じております。特に公共交通機関での来訪者については東武・JR・民間路線バス共に全国交通系 IC カードに対応していることから、キャッシュレスの対応はストレスフリーな乗り換えといった利便性の向上に寄与するものと考えられます。利便性向上のためにも、リーバスならびに予約バスなどの全国交通系 IC カードやクレジットカードのタッチ決済といったキャッシュレスの対応をすべきと考えます。	リーバスにつきましては、現在キャッシュレス決済の導入に向けて準備を進めております。予約バスにつきましても、検討を進めていきたいと考えております。

意見者No.		意見等	回答
2	6	全般 都市計画関連事業や業務についてのプロセス改善・コスト削減について 人口減少や財政制約が見込まれる中、必要な行政サービスや都市計画事業を持続させるためには、事業の縮小・廃止だけでなく、行政コストそのものを抑える取組も重要と考えます。 国ではデジタル庁などにおいてBPR（業務プロセス改革）の取組が行われています。本市においても第9次鹿沼市総合計画にて、「行政事務の効率化の推進」としてBPR（業務プロセス改革）の推進が掲げられているほか、「安定した行財政運営の推進」においても、庁内業務の効率化・最適化などが位置付けられています。都市計画関連の業務や事業についても、既存の業務プロセスや事業手法を継続的に見直し、行政コストの削減と必要な行政サービス・都市計画事業の維持を両立する取組を進めるとともに、その考え方を都市計画マスタープランにも位置付ける必要があると考えます。	マスタープランは、本市におけるまちづくりの指針を示すとともに、都市計画等を定める際の根拠となるものであり、BPRを含む個別具体的な取組については 記載しておりませんが、いただいたご意見は、今後の都市計画関連事業を推進する際の参考とさせていただきます。
3	1	該当箇所（ページ） 第3章 全体構想・土地利用分野 鹿沼市の買い物環境・利便性向上の為、 大型ディスカウントストアの誘致を検討頂きたい。	買い物環境の利便性向上については、マスタープランの市街地ゾーンにおいて、商業業務機能を基盤とし、生活利便性の維持に資する多様な都市機能の集積を図ることとしております。また、生活・交流拠点では、日常生活を支える行政、教育、医療・福祉、商業等の都市機能の集積を誘導し、良好な居住環境の形成と拠点機能の充実を目指しています。 いただいたご意見も踏まえ、買い物環境の利便性向上に向けたまちづくりを進めるとともに、地域の土地利用のあり方やその需要を見極めながら、今後の産業誘致の参考とさせていただきます。